

令和6年度環四国サイクリングプロジェクト（高知・四万十編）活動報告

（令和6年度愛媛大学国際連携 学生海外短期派遣・受入プログラム支援事業申請事業、愛媛県後援事業）

【事業概要・目的】

日本と台湾の学生が共に「自転車」というコンテンツを用いて地域の歴史・文化等に触れるフィールドワークを行い、日台間の異同等に目を向けつつ、実社会において有用となるグローバルな感覚や、協働を促進するコミュニケーション・リーダーシップのあり方について実践的に学ぶこと目的とした事業。また、産学官連携事業として、愛媛県が推進する「自転車新文化」を両国の学生たちが広く発信することも目的の一つとしている。今年で7年目を迎える。プログラムは、オンラインによる事前の国際交流を1回実施した後、「高知・四万十編」としてリアルな国際交流と、地域の歴史・文化に直接触れるとともに、SDGsの活動を通じて地域への貢献を目指した活動内容にしており、両国学生間の国を超えた「深いつながり」を築く機会とする。

【日時・方法】

（第一回）令和6年6月26日（水）方法：オンライン（ZOOM接続による同期型）／自宅等からの接続

（第二回）令和6年8月6日（火）～10日（土）場所：愛媛県松山市、高知県高知市・四万十町付近

【実施体制】

主催：愛媛大学教育・学生支援機構準正課教育ユニット、国立高雄科技大学（台湾・国）

後援：愛媛県

協力：愛媛大学校友会、愛媛大学SDGs推進室、一般社団法人しまなみジャパン、（株）Kai Works

学生リーダー：伊藤薫子（法文学部3年）

学生サブリーダー：山本龍弥（工学部2年）、吉田雅咲（工学部2年）、若林惺（農学部2年）

実施責任担当教員：仲道雅輝（愛媛大学教育・学生支援機構准教授）、村田晋也（同機構講師）、
許宏徳（国立高雄科技大学准教授、愛媛大学客員教授）

【参加者数】

合計：43名（学生38名）

愛媛大学生：20名（法文6名、社共2名、工学5名、理学1名、農学4名、教育1名、地域レジリエンス学環1名）

国立高雄科技大学生：18名

教職員関係者：5名（愛媛大学2名、国立高雄科技大学2名、しまなみジャパン1名）

【学習成果】

事前に、オンラインでの交流を1回行い、日台混合チームでの自己紹介や両国の文化を紹介し合うとともに、サイクリングで走行するルートの検討を行うなど、対面での交流をさらに深くすることをねらって、二段階での構成とした。

初日は、愛媛・松山市内で、日台混合チームに分かれ、松山城や正岡子規記念博物館、道後温泉などをめぐり、歴史や文学に親しみ、理解を深めるとともに国際交流を行った。

2日目の高知では、本プロジェクト（2020年度）の学生リーダーを務め、現在は高知県庁に就職した藤井彩祐美さん（工学部／2022年度卒業）に高知城やひろめ市場などを案内していただき、歴史・文化に触れる機会となった。

3日目の四万十サイクリングでは、39.9℃という日本一暑い中で、参加者が日台混合5チーム（5～6名／チーム）に分かれ、四万十川付近を自転車で走り、総走行距離約50kmを一人も脱落することなく完走証書が授与された。環四国サイクリングプロジェクトでは、これまでサイクリングで訪問することで得た恩恵を地域にお返しするという気持ちで、リバーケーン活動を実施した。コース途中では、休憩時に道に落ちているごみを拾い、全チームが協力した。この取組では、日台両国の学生が協力し、SDGsのGOAL12（つくる責任つかう責任）、13（気候変動に具体的な対策を）、14（海の豊かさを守ろう）、15（陸の豊かさを守ろう）の達成に貢献することを目指した。また、4日目の四万十川の魅力を体験するため、カヌー体験による四万十川の川下りを通じた交流を行った。その日の午後には、日台韓交流セミナーを日台韓混合学生で企画して、国による成人年齢等の違いやそれに伴う法律上の違い、文化の異同等についての交流が行われた。許先生からの「地政学」についての話を聞く機会も設けられ、国の違いによる文化や歴史に影響を及ぼしている事柄についても学ぶ機会となった。

成果発表会では、プロジェクトの成果として、「最初は日台で会話が通じなくても、サイクリングを通じて交通ルールや宿泊行事を通してゴミの分別の仕方など日台の相違点から会話のきっかけができ、体験が終わっても連絡し合う新しい友達ができたこと。」、「39.9℃という暑さにも負けない熱い気持ちで取り組めたから。」などの感想が発表された。参加者は、あらためて、対面で経験を共にすることの楽しさや意義を感じた様子であった。また、終了後も、台湾国立高雄科技大学学生らと、SNS 上で写真のやり取りを行うなどの継続した交流が行われ、来年の夏には、愛媛・しまなみサイクリングプロジェクトで会うことを約束し散会した。本プロジェクトは、愛媛県が推進する「自転車新文化」を広く発信することも目的の一つとしており、参加学生からは、地域の歴史等への関心が高まり、サイクリングを通しての自転車新文化の裾野の広がりを感じる機会にもなっている。今回の開催は、学外への広報としてプレスリリースの発行を行い、愛媛大学生のアクティブな活動を地域に知っていただける機会ともなった。



オンライン国際交流の集合写真



初日夜の交流の様子



日台韓交流セミナー1



日台韓交流セミナー2



サイクリングの様子 1



サイクリングの様子 2



サイクリングの様子 3



サイクリングの様子 4



カヌー体験の集合写真



カヌー体験の様子



リバークリーン活動の様子



キャンプファイアの様子

朝のラジオ体操（台湾版と日本版）の様子



各チームからの成果発表の様子



完走証授与後の集合写真

愛媛大学正門での最後のリーダー挨拶の様子

PRESS RELEASE

令和6年7月29日 愛媛大学

環四国サイクリングプロジェクト × SDGs リバーサイクリングアクション

愛媛大学 & 国立高雄科技大学

環四国サイクリングプロジェクトは、「輪軸島」というコンテンツを用いて、グローバルな観察やコミュニケーション、リーダーシップのあり方について実践的に学ぶことを目的としており、4年間かけて「四回一周期」を達成するものです。プログラムは、オンラインによる事前の情報交換を実施した後で、地域の豊富な文化に直接触れるとともに、SDGsの活動を通じて地域への貢献を目指した活動内容にしています。プロジェクトへの参加を通じて、海つながる両国的学生間に、国を超えた「思いつながり」を築きます。

つきましては、ぜひ取材くださいますようお願いいたします。

記

【日 時】 令和6年8月6日（火）～8月10日（土）

【場 所】 高知県高知市及び四万十町付近

【参 加 者】 愛媛大学生 20名、国立高雄科技大学学生 20名他、専門教職員、一般社団法人しまなみジャパン、Koi Works 株式会社など

【内 容】 別紙参照

【主 催】 愛媛大学 教育・学生支援機構 準正課教育ユニット、
国立高雄科技大学（台湾）

【後 検】 愛媛県・愛媛大学校友会、愛媛大学 SDGs 推進室

【運営協力】 一般社団法人しまなみジャパン、Koi Works 株式会社、四万十楽舎、四万十カヌー館

■取材いただける場合は、8月2日（金）までに下記問合せ先へメールにてご連絡ください。

参加する学生が、インタビューにお答えいたします。

事件に関する問合せ先
愛媛大学教育・学生支援機構 準正課教育ユニット
仲澤和輝、向井純吾
TEL: 089-927-9154
Mail: leaders@stu.ehime-u.ac.jp

※添付資料 2枚（本紙を含む）

学生中心の大学 地域とともに輝く大学 世界とつながる大学

愛媛大学 国立高雄科技大学

環四国 サイクリングプロジェクト in 40010

2024年8月
6日(火)～10日(土)

Day1 サイクリングセミナー
Day2 徒歩＆高知市内散策
Day3 四万十川サイクリング SDGs リバーサイクリング
Day4 河川清掃
Day5 両国表彰式

オフィシャルサイクリングジャージを作成します。
出来が良くなれば、ぜひお手に取ってください。
デザイン等は実施要領を参照してください。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
12 13 14 15 16 17
対象者：愛媛大学生・國立高雄科技大学生
参加料：50,000円(税込)
定員：愛媛大学生20名、國立高雄科技大学20名
主催：愛媛大学校友会、愛媛大学SDGs推進室
協賛会社：教育学生支援部、教育企画課（担当：向井・石川）
担当先：cycling_jr@stu.ehime-u.ac.jp

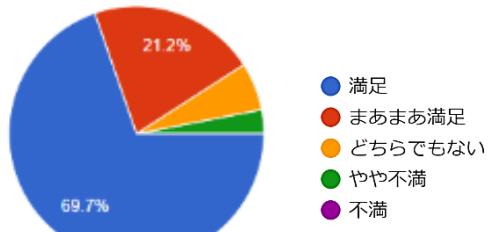
プレスリリース 1

プレスリリース (フライヤー)

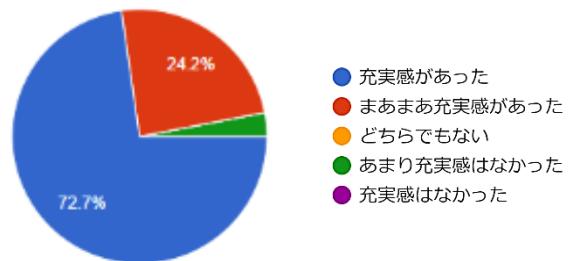
アンケート結果

参加者 38 名 (回答数 33 回収率 86.8%)

1. 満足度 (n:33)



2. 充実感 (n:33)



3. プロジェクトに関して、意見や感想 (自由記述 : 抜粋)

1	日台韓の学生による交流セミナーにおいて、主に学生時代の各国の文化をクイズ形式で学び、選挙権や地理的な位置関係を先生方からの解説も交えて理解を深めることができた。
2	台湾に戻った後、他の人との約束を先延ばしにするのではなく、もっと時間を守るようにする。
3	繋がりを大切にしたいと思えるメンバーに出会えたこと
4	最初は日台で会話が通じなくても、サイクリングを通じて交通ルールや宿泊行事を通してゴミの分別の仕方など日台の相違点から会話のきっかけができ、体験が終わっても連絡し合う新しい友達ができること。
5	日本の礼儀正しさや時間を守るという古きよきアイデンティティを実践的に伝えるとともに台湾学生からはそれぞれが選んで、持ってきてくれた台湾のおみあげをもらったり、当日の振り返りのあとに部屋に集まって交流しようと誘ってくれたりと、プロジェクトの枠にとらわれない一人一人の自発的な思いやりを肌で感じ、互いに刺激を与えられあいながら交流を深めることができた。
6	自分たちで英語や翻訳アプリで頑張って交流できた。それにより、言葉が通じたときの達成感が大きく私の中では過去3回参加して一番仲良くなれた。
7	積極的に台湾の人と交流することができたことです。チームリーダーになったことによって役割に伴う責任を感じることができ、少しでも参加者を楽しませたいと思うように行動ができました。
8	日本語が話せない学生でも参加しやすいように、アクティビティ全体が丁寧に設計されていました。
9	可以增加雙方的眼界，比此相互學習，也可以提升團隊合作的能力。這次的活動很多是大家都完再一起的，所以會為了一起玩我們克服語言障礙玩再一起，這樣的活動也可以很快的拉近台灣及日本同學之間的距離（双方の視野を広がり、お互いに学びあい、チームワークの能力を向上させることができました。今回はみんなで集まるアクティビティが多く、言葉の壁を越えて一緒に楽しむことができたので、台湾と日本の学生の距離も一気に縮まりました。）
10	39.9℃という暑さにも負けない熱い気持ちで取り組めたから。

以上